

シートシャッター製造大手の小松電機産業（松江市乃木福富町、小松昭夫社長）は業界で初めて、空気を使って開閉する防爆仕様のシートシャッターを開発した。電気による火花や静電気が発生しないため、可燃性のガスが出る場所での爆発事故を防げる利点があり、安全性が向上。石油精製工場や化学工場などでの需要を見込んでいる。

小松電機産業（松江）が開発

小松電機産業が開発した、空気駆動する防爆仕様のシートシャッター。松江市乃木福富町、同社



防爆仕様シートシャッター

空気開閉 電気火花発生せず

可燃性ガスが発生する場所では、火花や静電気がガスに引火し、爆発や火災事故を招く恐れがある。このような「防爆区域」と呼ばれる危険な場所では、電気機器も爆発を抑える構造の製品が使われている。

気式から、圧縮した空気で動かす方法に切り替え、「ハッピーゲート門番 防爆仕様」を商品化した。

シートは1秒当たり1・2倍の速度で上昇する一方、同0・7倍で下降し、虫やほこりの侵入を防ぐ。価格は、幅と高さとともに3倍の仕様の場合で約300万円。

小松社長は「安全安心に働ける環境づくりに貢献したい」と話し、既に、出雲市や大阪府、群馬県にある化学工場で導入された。

防爆仕様のシャッターで、より安全性を高めるため、同社は複合素材メーカー、日本ウエーブロック（東京都）と組み、帯電を防ぐガラス繊維製のシートを開発。さらに、シャッターの駆動も既存の電

同社の2013年3月期の売上高は34億円。ほかに、風圧に強い屋外仕様や冷蔵冷凍庫仕様などを開発している。